

2014年日本音響家協会賞に輝いた音響芸術家

人
あさはら じゆう
浅原 勇治さん



「客がいかにか気持ちよく音を楽しめるか。それだけを考えてきた。その思いが報われた気がしてうれしい」と、控えめに笑みを浮かべる。

日本の音響芸術家と音響技術者が集まる協会が、業界の技術進歩と、音楽家の繁栄に著しく貢献した「音響人」に贈る今年の最高賞に輝いた。

評価されたのがジャズにおける独創的な音響デザイン。関東と比べ、関西は舞台の音づくりが派手で「厚化粧」といわれる中、独自の手法で「薄化粧」にこだわってきた。

「音響は、演奏者と客との空間を取り持つ仕事。だからぼくが主張してはだめ。素顔の音に少し艶を出してあげるんです。生の舞台を楽しみに来た客に、スピーカーの音を聴かせるだけならテレビを見せるのと同じですから」

京都で生まれ育った。高校

生の時、中森明菜さんの野外コンサートで、雨の中で仕事する音響スタッフの姿に憧れた。高校卒業後、専門学校で基礎を学んで神戸の音響会社に入社。歌謡コンサートやラジオ放送の場で腕を磨き、1999年に独立した。

発祥の地・神戸から、美しい音のジャズを楽しんでもらおうと、小曽根実、大塚善章氏ら大御所と仕事しながら関西の音楽界を支えてきた。そんな存在に、多くの演奏者から厚い信頼が寄せられるのは、一貫してぶれない哲学があるからだろう。

「どれだけ音響機器が発達しよう、声も楽器も生の音の素晴らしさには絶対にかかわない。それをどこまで生かせるかが、ぼくの仕事」

関西ジャズ協会会員。趣味は温泉巡り。明石市在住。49歳。
(富居雅人)